

学校訪問レポート

年月日	2023年2月16日(木)	
訪問委員	川本 まり子委員	随行者 平田あかし教育研修センター所長

訪問先	訪問内容	学校の特徴・課題等	委員感想・意見
大久保中学校	校長懇談	<p>生徒数：1,002名 通常988名(26C) 特別支援14名(3C)</p> <p>1 不登校生徒の状況について 不登校担当教員は加配教員ではないが、3者懇談会の後に生徒・保護者と面談する等きめ細かい対応をしている。特別支援教育コーディネーターを3名体制とし、通常学級で配慮の必要な生徒の学習面等のフォローをしており、保護者とコーディネーターが個別に面談もしている。また、卒業後の進路を考え、2年生から定時制高校や特別支援学校の学校訪問を行う等、見通しをもった指導をしている。</p> <p>2 いじめ問題について SNSが原因による事案が多い。学年としては1年生。先日も、個人の写真を勝手にグループラインでまわしトラブルとなった。年度当初に外部講師を招いてネットトラブルの講演会をしているが、改めて学年生徒指導担当者が全体指導を行った。</p> <p>3 働き方改革と部活動指導について 夏場なら16時から18時30分まで指導をしており、その時点ですでに勤務時間が過ぎている。さらに、留守メッセージは生徒完全下校1時間後の19時30分に設定しているため、それまで学校を閉めることはできない。部活動指導者の地域移行が難しい中、完全下校時間を早くする等できないか。また、教職員の意識改革も必要だが難しい。</p> <p>4 制服について 新1年生からあかしの制服と混在になるがかまわないと考えている。昨年末の小6アンケートでは、男子7:3、女子5:5で、あかしの制服を希望する児童の方が多かった。</p> <p>5 男性の育休取得状況について 昨年度2名。本年度は1名1学期だけ取得したが、学年主任をしており、代替教員もなかなか見つからず学校運営に苦労した。代替教員は、校長自ら元同僚の退職者に頼み来てもらった。</p>	当日報告
	授業参観	<p>全体的に落ち着いた雰囲気の中、生徒たちは集中して授業を受けており、教員と生徒の関係も良好に感じた。タブレット端末を活用している授業が多く、教員・生徒とも操作に慣れており、普段から活用していることが伺えた。特に、プロジェクターが設置されてからさらに活用が進んだとのことであった。</p>	

山手小学校	校長懇談	<p>児童数：1,239名 通常1,219名（36C） 特別支援20名（4C）</p> <p>1 教育環境について 学校に到着したのが業間休みの時間で多くの児童がグラウンドに出ており過密状態であった。児童がぶつかることはあるが、大きなけがの事案は発生していないとのことであった。図書室はプレハブにあり、児童数からすると規模が小さく蔵書数が限られる。また、給食調理場を新設したために中庭がなくなってしまっている。ただし、元の給食調理場を児童支援室に改修し、教室に入りにくい児童が学習していた。</p> <p>2 学力について 学力学習状況調査結果を踏まえ、まず、国語の力を引き上げるため、外部講師を招いて学期に1回校内研究授業を行った。また、5・6年生については、タブレット端末の持ち帰りをさせており、自宅でタブレットドリルを活用した家庭学習等に取り組む予定である。</p> <p>3 働き方改革について 先生方は真面目で働きすぎるので、タイムマネジメントを考え、19時には退勤するよう指導している。</p> <p>4 PTA活動について 数年前にPTA会員が大幅に減少したことを受け、PTAという名称をやめ「AFCやまて（ALL FOR CHILDREN）」として活動している。いわゆる本部役員のみ立候補で決定し、子どもたちのための活動に特化している。活動に参加する「正規会員」と、お金は出すが活動に参加しない「準会員」とし（ともに年会費500円）約7割の方が加入している。（2022年加入実績 834名/1,239名）</p>	当日報告
	授業参観	<p>どの学級も落ち着いて学習に取り組んでいた。小1については教室が足りないため30人学級になっていないが、市費加配臨時講師が学年全体を見て、支援の必要な児童に柔軟に対応することができ効果的とのことであった。</p>	

			
			
大久保中学校	山手小学校		

令和 4 年度 学校園訪問レポート

1. 訪問日時等

日 時	2023 年 2 月 14 日 (火) 10:20~13:20
訪問委員	柏木教育委員 (随行: 山下学校給食課長、西山総務担当課長)
応 対 者	福本校長、斎藤教頭 (沢池小) 安保校長、福永教頭 (野々池中)

2. 視察概要

沢池小学校	野々池中学校
①休憩時間の運動場の様子 ②特別支援学級 (半教室) ③新築校舎 (給食室・教室合築) ④職員室 (フリーアドレス) ⑤校長との懇談	①配膳室での準備の様子 ②給食の実食 ③こども達の給食準備・喫食の様子 ④校長との懇談
<p>校長懇談</p> 	<p>校長懇談</p> 
<p>職員室 (フリーアドレス)</p> 	<p>給食喫食</p> 
<p>新築給食室</p> 	<p>給食配膳室</p> 

3. 校長懇談の内容

(1) 沢池小学校（福本校長）

○児童数の増について

- ・児童数が毎年 60 人近く増えており、教室不足はないかなど地域から心配の声がある。
- ・懸念は、1つしかない特別教室。週で 29 コマしか使えないため、29 学級を上回ると基本的に追いつかない。特に音楽室などは厳しい。
- ・児童クラブなども空き教室の利用についてお願いに来られるが、なかなか応じにくい。
- ・児童数が多いことのメリットとしては、クラス替えのしやすさがある。

○職員室のフリーアドレス仕様について

- ・教職員からは好評。若い教員が多く新しい環境を前向きに受け入れる素地がある。コロナ禍以降自分の教室で作業する事も多く、職員会議もリモートで行うなどの環境もある。

○不登校対策について

- ・従来は学校で嫌なことや上手くいかないことが不登校の原因であったが、今は面倒くさい、夜遅くまでゲームして朝起きられないなどの理由が多い。そうした子は学校に来れば平気。
- ・不登校より遅刻が多く、親も送り出す元気がなく欠席や遅刻のハードルが下がっていると感じる。

(2) 野々池中学校（安保校長）

○中学校給食について

- ・温かい給食でボリュームも十分あると思う。汁物の味が薄いという声もあるようだが、特に薄いとは感じない。各家庭で好みの味付けがあるからだと思う。
- ・残食をいかに減らすかは課題の一つ。コロナ禍で学級閉鎖や欠席生徒が増えたこと、感染防止対策のため残食を他クラスへ融通できなくなったこと等で残食が増えている。ただし、欠席者を除いた残食率（国の統計調査の算出法）は全国平均と比べて 2%程度低い。
- ・アンケート（あかしっ子大好きメニュー）などで、子どもが好きな献立や給食に対する意見を聞く取組はありがたい。昔はカレーなど人気上位のメニューに人気が集中する傾向があったが、今は嗜好性の多様化のためか人気分散する傾向がある。
- ・アレルギー対応として除去食を提供している生徒数は全市で約 40 名。
- ・クラスワゴン配膳員が教室前まで運ぶが、校舎の構造等を理由として生徒が配膳室まで取りに来るクラスが一部ある。

○不登校対策について

- ・毎週不登校対策委員会を開催し、現状や対応策を検討共有している。その結果、登校できるようになった生徒がいる。
- ・適応教室（すずらん、最大 10 名）で学習しながら、興味ある授業を少しずつ増やすイメージ
- ・生徒指導相談員には保護者相談にも対応いただいております、大変助かっています。

○部活動の地域移行について

- ・現在は 9 割の生徒が部活動に加入し、残り 1 割は地域のクラブや習い事を優先している。
- ・ノ一部活デーは有効に活用できている。ただ、部活動を頑張りたい先生からすれば、物足りないと感じているかもしれない。（毎週水曜と土日どちらか 1 日は部活なし）
- ・部活動の地域移行は正直先行きが見えていない。先生の負担を減らしてほしい思いはあるが、平日と土日で方針が異なるなどで子どもが迷うことがないようにしてほしい。